関西観光・文化振興計画検討委員会（第1回）の概要について

１　日　時　平成 26 年 8 月 11 日（月）午前 10 時～正午

２　場　所　京都タワーホテル 9 階「飛雲の間」（京都市下京区烏丸通七条下ル）

３　出席者　大橋昭一委員（座長）、河内厚郎委員、坂上英彦委員、橋爪紳也委員、
福島伸一委員
別紙出席者名簿のとおり

４　内　容
（１）委員会設置
（２）座長選出
（３）計画検討について
（４）意見交換
委員の主な意見は以下のとおり。

◆文化振興のとりまとめについて

【計画について】

○現行計画に、文化振興の考え方や取組を入れ込んだものに見直すということを「はじめに」や「前段」で記述することが必要。

○文化振興指針はかなり抽象的な表現にとどまっている。観光との表現のレベルを合わせるなら、文化としての具体的な戦略を示す必要があるのではないか。

【観光と文化の融合】

○文化があって観光がある。観光があって更にその文化が花開く。観光と文化が連携することにより、相乗効果で文化が経済への波及をもたらす。

○現行計画では、戦略のテーマ4だけに文化を絞り込んでいるが、戦略テーマ1の「KANSAI」を世界に売り込むとか、テーマ2の新しいインバウンド市場への対応においても文化で関西を世界に売り込んでいくことはできる。テーマ 5 の文化的なインフラについて、観光と融合的に取り扱ったらよいのではないか。

○新しい文化観光資源を観光サイドで発見することが非常に重要。つまり、文化産業、創造的産業の振興であるとの認識の下に、文化を観光資源にしていくという発想が重要。阿波踊りも元々地方的な盆踊りだったものが観光・芸能化された。

○アジアの方を受け入れる文化的なコンテンツは何か、また欧米系の方向けの文化的な観光とは何かも考えていかないといけない。また、ラグジュアリー層向けの観光振興策が重要。

【観光につながる文化の取組・発信強化】

○オリンピック期間の7～8月頃には、関西で祇園祭や天神祭など大きな祭りが集中している。関西が発祥の能楽、歌舞伎、文楽の三大古典芸能もある。こういうものをバラバラにやるのではなく、旅行会社と連動してやっていってはどうか。

○作品の舞台となったところでやるということは魅力がある。関西各地を劇場に見立てて演出すると首都圏より有利でインパクトがある。

○高野山開創1200年、河内の狭山のため池ができて1400年、近松門左衛門没後300年など、これらもそれなりに文化遺産になってきおり、周年事業を活用して断続的に仕掛けていくべき。
○関西を東京や世界の他地域と差別化する要因は歴史と文化。文化をもう一度新たな視点で検討し入れてほしい。伝統芸能やマンガ・アニメ、食、祭りなど具体的にやっていくことが必要。
○文化の予算は 4,000 千円でいいのか。府県市や関連団体の中での財政的枠組みの見直しが重要。

◆２０２０年東京オリンピック・パラリンピック等関連

【計画について】

○2020年のオリンピックを前提として、この大きなインパクトを活用していくということが、文化だけでなく観光の面でも非常に重要で、現行計画の「はじめに」や「前段」でそれに向けて戦略を見直していくということの明記が必要。
○何か互いの目標があれば、みんなが行動を集計するときの一つの旗印になるので、関西全体の数字、できれば人数だけではなく、経済効果とかそういうものも含めてモチベーションが高まるような計画になればいいと思う。

【オリンピックに向けた取組・情報発信】

○パリやニューヨーク等国際観光都市と競争して競り勝つためには、京都、大阪、神戸、奈良といった単体ではなく「関西」という広域で取り組むべき。関西 Wi-Fi、外国人専用の交通パス、多言語対応のさらなる強化、イスラムの方への対応（礼拝堂、食事。「関西」＝「ムスリムフレンドリー」。）等、インフラ整備が重要。
○広域に多くの人が周遊できるための方策も必要である。瀬戸内海、琵琶湖など船の魅力が関西にはある。京都縦貫自動車道など広域の幹線道路網などの広域ネットワークをうまく活用して、特に日本海の方にいかに行っていただけるのか、広域連携の中で考えるべき。
○2020 年をコアにして、どれだけ関西に大きなイベントを取り込んでいけるかが重要。関西ワールドマスターズゲームズはアジア初のスポーツと観光のビッグイベント。堺市立サッカー・ナショナルトレーニンセンターなどへ、どこかの国のサッカーチームの合宿を誘致するのも一案。そのためには官民連携で取り組む組織が必要。
○MICEを中心としたIRを大阪・関西に誘致すべき。ギャンブル依存症等を懸念される方もあるが、しっかり対策を講じて MICE と IR が実現できれば、文化振興、産業振興、国際観光の強化という視点で大きなキラーコンテンツとなると考える。
○観光が文化を再編成することが重要。関西の三大祭り、五大祭りとか三大マラソン、関西の食を10選ぶとか、パッケージ化して打ち出すということがあってよく、広域連合から提案していくのが大事だろう。
○文化的には地域のイメージ、そういうところだという印象を与えることは大きい。関西の良いイメージを回復・定着させないといけない。
○日本文学をもっと翻訳して出していくことが必要。日本文学の相対的地位も上がってきており、文学サミットみたいなものをやるときが来たのではないか。

【関西オリジナルを考える】

○関西独自の計画を持たないといけない。東京プラスワンとか、東京に来たから利用してもらうというような発想ではなく、関西のそれぞれの地域ごとにプログラムを用意して、それを盛り立てるコンテンツとしてオリンピックと連携していくと考えると理解しやすい。要は独自のプログラムを持つべき。
○東京オリンピックをきっかけとして利用する形で、各都市が我々はこんな魅力的な都市・観光地をつくるんだという理想を持っていなければ、一過性のものになる。
○関西のキラーコンテンツを考える点で、日本の世界文化遺産など、世界標準でみてオンリーワンのもの

に注目していくべき。ローカリズムを含めて世界にアピールできる魅力に注目すべきではないか。
○何回も行ってみたいと思うところは歴史の薫りみたいなものを感じさせる。関西には歴史を感じさせるネタがあるので、フルに活用しないとだめ。
○関西は、食文化や祭り、季節の四季もすばらしく、生活文化が非常に豊か。ライフスタイル観光という、こうした生活そのものに魅力があるということが重要なアピールポイントではないか。

【オリンピックを契機に世界視点で考える】
○オリンピックは世界標準を整えると同時に、ユニークさ、固有性をアピールする機会。手洗いでも案内所でも、従来これで良いと思っていたものを現在の世界標準にしていかねばならない。
○安全の確保も重要。ロンドンオリンピックでは、都心部の治安強化が様々行われた。爆弾が放り込まれても大丈夫なゴミ箱を企業がスポンサーとなって設けた。また、ロンドン市長は英国に投資していない有名な会社の経営陣を招くコンベンションを行い、ロンドンをアピールするとともに、アフターコンベンションでオリンピックの陸上競技を観るというようなユニークなプログラムを組んだ。関西でユニークなMICEを誘致して、アフターコンベンションで東京にオリンピックを観に行くということもできるのではないか。
○ロンドンでは観光プロモーションと投資を呼び込む組織と留学生誘致をする組織が合併し、シティプロモーションをする組織が一つになった。観光客が増えれば留学生や投資が増えるといった発想を強化すべき。この観光の行政セクションと大学がうまく連携するという発想は画期的なことで、大学と観光の連携を考えていって、若い人を受け入れるようなプログラム、学術研究の新しい事業を展開するようなプログラムの分野と観光というのは非常に親和性があると思う。
○文楽劇場が字幕を入れたり、淡路の人形浄瑠璃が何時行っても同じものをやっているというのはファンからすると味気ないものではあるが、世界の人が日本に来たとき一番大事なものをやっていないと寂しい。翻訳機能とビジュアル機能を早く整備して、世界に発信していくべき。

【オリンピックを契機に関西を変えていく】
○従来の文化や観光のプログラムを超えて、先に我々が考えないといけないのは人口減少期を迎える関西圏をどんな地域にしていくのかということを意識した観光文化の戦略。一過性に終わって、2020年だけ外国人観光客がたくさん来られても困る。将来的に圏域人口の減少を何とか最小限に食い止める、地域によっては社会増があるような、そういうことを意識した観光文化の戦略が必要。
○2020年は関西の生活が非常に魅力的だということで、交流人口が定住人口に変わり得る素地を持っているということを認識するべき。
○安全安心で魅力的なまちづくりに取り組むべき。これからは少しきれいなまちづくりが観光や文化振興のベースになる。京都市は四条河原町の車道をカットして歩道にされようとしている。大阪の御堂筋も一車線つぶして歩道にすれば、誰もがまち歩きを楽しめる。民の知恵と力を活用して、オリンピックを機にまちづくりを進めるべき。

【推進体制】
○関西広域連合は観光・文化の面において、組織面・資金面を含めて九州や北海道、東北地方の広域的な動きと比べてもかなり遅れている。組織整理を十分に行い、自治体ごとのバラバラの財布や官民連携などを改善していくのが2020年になるのではないか。
○いろいろ議論していることを実際に実行できる人材はかなり限定される。観光・文化というのはかなり人の心を感動させないといけない職種で、そう簡単に確保できない。この人材を、どのようにこの組織で集めていくのか。行政だけでは難しいし、ヘッドハンティングや委託したりと臨機応変な対応が求められるのではないか。

関西観光・文化振興計画検討委員会（第１回）出席者名簿

所属団体	所属・職名	氏　名
滋賀県	商工観光労働部観光交流局 しがの魅力企画室 主査	恩地　衛
京都府	商工労働観光部 観光政策監	平井裕子
	商工労働観光部観光課 広域観光担当課長	亀澤博文
	商工労働観光部観光課 副課長	森田ひとみ
	商工労働観光部観光課 主査	中村政幸
	商工労働観光部観光課 副主査	澤田　稔
	文化環境部理事	金谷宗子
	文化環境部理事（文化政策課長事務取扱）	雨宮　章
	文化環境部文化政策課 広域文化振興担当課長	大同　武
	文化環境部文化政策課 副課長	広井真弓
	文化環境部文化政策課 主事	山根木菜央
大阪府	府民文化部都市魅力創造局 文化課長	奥平　薫
兵庫県	企画県民部芸術文化課 事業調整班	山田奈緒
和歌山県	知事室政策審議課 企画員	山東良朗
	企画部企画政策局 文化国際課 主査	井本ゆか
鳥取県	生活環境部緑豊かな自然課 山陰海岸世界ｼﾞｵﾊﾟｰｸ推進室長	遠藤俊樹
	文化観光スポーツ局 文化政策課 係長	竹ノ内司修
京都市	産業観光局観光MICE推進室	吉原　学
大阪市	経済戦略局観光部 観光課担当係長	鈴木貴司
	経済戦略局文化部 文化施策担当課長	松本孝史
堺市	文化観光局文化部 文化課	瀬貫正雄
神戸市	市民参画推進局文化交流部 文化振興担当係長	島崎宏道
奈良県	観光局観光プロモーション課 主査	宗京典子
近畿運輸局	企画観光部 計画調整官	小島隆夫
文化庁	文化芸術創造都市振興室	中島智子
公益社団法人 関西経済連合会	産業部 参事	坂本浩之
	産業部 副主任	中西康真
関西地域振興財団	常務理事	安竹素之
	企画2部長（国際観光担当）	吉村昌泰
新関西国際空港 株式会社	航空営業部プロモーション推進グループ 副部長	筒井千恵